

911.3  
3/

秋  
興  
賦



秋興賦

涼帝

孝超の玉光館にありて秋興賦を  
作す。其の詞、  
予悲しむ。或人の子。其の命、  
をたげたる。故に秋興賦を  
作す。其の詞、  
故に秋興賦を

善の夫や宋玉の辭に曰や秋興賦  
十九の年を以て星のついでに  
琴の音を以て





今幸子勝川と伊達ハ志めれなり

飛尺の伽羅香一束

おあ〜〜ま吹ちりふふ草の菴

墓石子々りびびる音も仙人

凌宵ハ露〜〜涼〜〜物名月

為るを起る毛虫掃也

於膳ハ利〜〜も高〜〜に赤ま〜〜

瓶子手寄お前の紋

毒〜〜葉〜〜和〜〜く〜〜葉〜〜武者振

雄鳥〜〜の〜〜に〜〜破乃立波

汲〜〜也〜〜次〜〜葉の〜〜明〜〜不〜〜れ〜〜も〜〜あ〜〜お〜〜ほ〜〜ろ

やめさ〜〜す〜〜確は〜〜却〜〜為〜〜ハ〜〜な〜〜ん

赤目〜〜し〜〜〜〜〜み〜〜と〜〜又〜〜も〜〜鱗〜〜よ〜〜く

扣〜〜れ〜〜〜〜〜おを〜〜お〜〜り〜〜ふ〜〜不〜〜痛

分節乃〜〜也〜〜松石花〜〜ふ〜〜つ〜〜お〜〜之

か〜〜つ〜〜さ〜〜お〜〜時〜〜重〜〜〜と〜〜刀

ア

趙

如

日

趙

如

日

趙

如

日

趙

如

日

趙

如

日

徳川の春ハ浮世乃路々な心 趙

東の春ハ友と名あ方て待 ぬ

短尺ハ葡萄乃垣ハ透通リ 也

紫山子をかきく外ハ盗人 趙

赤糸を搦ハ口ハ花ハ昔の月 ぬ

ひやうハ房ハ馬をかきぬ 也

結ハ月の事ハおとすハ佛あり 趙

木をかき止泉ハぬハ春ハ ぬ

棟梁ハ春ハほもろハてハいろハ心 也

年ハおハ一ハきぬハ昔の嫁ハ 趙

片ハ花ハ細ハ細ハ道ハはく ぬ

かけろハの巢をかきハ摘ハ草 也

草かじなるハハ 菴ハハハハ

漆ハハハハハハハハハハハハ 涼幣

欄干ハハハハハハハハハハハハ 南為

いろ栗乃ハハハハハハハハハハハハ 六棟

鷄冠を帝幸いしして秋若くは 蝶角

頬杖の指く合勢ぬきぬく風 去路

舟引乃鹿を幸りふ写子の那 栲人

よのよの京の口和や層ぬきふ 阿坡

寸指くおろぬく海やあさの秋 寸豆

高きおろぬの思案ハ海一秋の山 其則

稲妻のあし追うけぬおあけふ 蘭曉

連花ハあや子荷持や後りる 晴帆

此内ハ秋くお暑やさし 胡秋

十六おや園一ツはハ音の中 舊桂

麻乃香の申持くおれやば 南岳

蜻蛉ハ谷をのり川くお葉うお 桐原

追ひぬく雲をまじるやけりる 秋午

物乃や戸ぬ枝よおありほの月 千宗

車井ハ名ヤ下かおくおきとら 免圓

問答の御書く破りたるをば 和鳴

香くかく隔乃ちうきまねのき  
三楚

又月空子誘りくす燈籠  
楚雲

舞子指ヤきく燈籠  
冠子

初月や豊田の人もあつまる  
まき書

は折戸不便を遠路やはの月  
扇柳

魚の目く計はあうりく  
巴陵

露も来く九日およや菊島  
太府

細道も一葉ふりく  
柴車

灯を中へく  
砧上

蓮乃実花飛てハ送る燕去  
雙飛

蜻蛉の矢種争つてぬ葉山子ぶ  
鹿岡

あさくは霧やの布川く  
柝隣

母は俵ふ待りく  
伊山

和宮をまねぬ人あつて  
可乞

秋葉山やすく  
お蝶

つ不くか  
芙蓉



新衣をひろく息やむのあ

女  
甲斐

さつたつと星のまきしるきふ乃月

仙若

襟くをきくきりてみまぶ

乙女

新しやお目ふあやふ月のみ

菊麿

乃よのま角をかくしやきんの綿

可夕

おきく富士のしるねさや秋のせ

松守

おきよひやうのつくとおきよ

蕉里

暮しのこしてはあまのさうあ

林水

新し水く橋をりて

晩秋のうらやうて

は呂波のほあや秋きくせ

孝超

餘真

新し乃柳ちりてあててのあ

涼節

新しを底きお月の福川

孝超

吟ふてかく菌の腋をあふる

紫

為一はくを新し腰ハき

超

名津子繪巻乃蓋い〜

おの巻子低く〜

お傘とおもてりは尾の尾〜

また拾ふ〜

多〜屋々謠も知つ〜

国士乃茶の湯〜

誰もす〜過〜ぬ櫓〜

お〜〜〜神託の耳

結納のさ〜ワ〜ハ自〜

誦さ〜〜

玉棚〜〜車〜乃〜

手の〜〜

茶の〜〜

ユ〜マ〜

能〜

女人堂〜

紫

趙

紫

趙

紫

趙

紫

趙

紫

趙

紫

趙

紫

趙

紫

龍耳を吐けを山も近き事一して  
越

カケル心よハ大おの粥  
越

露轉して鳥より溜の年々層  
越

松子なりしめを鶴も千を  
越

佛カハるる不初あけし鐘のあ  
越

吹流て高きく皇其の久し  
越

花ふし鞠乃作通ハ折て折  
越

歌朽一ハれ意母も侍者  
越

新坊の心もかゝ流りる乃月  
越

ハ

壱あけし時茯苓て赤心  
越

園栗乃礫多河を志しセリ  
越

杖ハ美包笠ハ維成  
越

世乃中を逆るるし流るる  
越

赤毛孫ゆる申は大局  
越

折る来りて母子相合の勢りて  
越

地のまきし踊りて蝶々  
越

糸

寬延元、年九月望



了林

淺草並木町

江北邊

蕉里 林水

檜

